

SPECIAL

INTERVIEW 03

阪田知樹 Tomoki Sakata

日本センチュリー交響楽団の定期演奏会デビューを
バルトークの3番で飾る人気ピアニスト阪田知樹

2度の出演延期を乗り越えて実現する巨匠コヴァーチュと日本センチュリーとの再演。ハンガリーで共演実績のある阪田知樹がこの日の為に選んだのは、マエストロが得意とするバルトーク。阪田知樹が熱い思いを語ってくれた。

—— ヤーノシュ・コヴァーチュさんとは、共演実績があるそうですね。

私が優勝した2016年の「フランツ・リスト国際ピアノコンクール」の審査員の一人がコヴァーチュさんでした。この時の審査員は他にもジェルジュ・クルターグ、ゾルタン・コチシュ、シブリアン・カツワリス、ミシェル・ペロフといった豪華な顔ぶれ。リストが好きで、本場で行われる伝統のコンクールで認められたいのと同時に、この審査員に私の演奏を聴いて欲しいという思いで応募したところ、優勝する事が出来ました。レセプションでコヴァーチュさんが、「素晴らしいよ。ぜひ一緒にやろう」とおっしゃってください、2019年にハンガリーで共演の機会をいただきました。リストの「死の舞踏」を演奏しましたが、私がやりたい音楽を尊重してください、素晴らしい時間になったことを覚えています。

—— 演奏されるのはバルトークのピアノ協奏曲第3番。比較的演奏会の少ない曲ですが、魅力を教えてください。

バルトークは日本ではまだ演奏機会が少ないかもしれませんが、彼が作曲した「ミクロコスモス」1巻～6巻でピアノを練習していた私には、身近な作曲家です。彼の故郷でもあるハンガリーの人にとって、民謡（人間らしさの象徴）と自然は、音楽においても重要なキーワードです。土俗的な香りのする彼の作品の中にあってピアノ協奏曲第3番は、どちらかと云うとリリシズム（叙情性）を感じる作品です。同じピアノ協奏曲でも、1番と2番の方が野生的な力強さを感じます。バルトークが作曲した3つのピアノ協奏曲の中では最も演奏機会が多く、作曲者の妻に捧げられた3番は、時に荒々しい程の技巧で覆われている1番と2番とは一変して、ロマン派音楽を思わせるような美しい旋律や移りゆく繊細な和声がとても魅力的で、聴き手の心に沁み入る作品となっています。またこの協奏曲は、オーケストラにも多彩な響きが要求されるためオーケストラの演奏にもぜひ注目していただきたいです。この曲に精通していらっしゃるマエストロと今回一緒にさせていただけることがとても楽しみです。

—— 今回のプログラムはリスト、バルトークに続き、後半がショスタコーヴィチの交響曲第5番です。プログラムについてはどのような印象をお持ちですか。

何と言っても、珍しいリストの交響詩「プロメテウス」から始まりです。私のようなリストファンからすると、この時点でワクワクします（笑）。そこにバルトークのピアノ協奏曲第3番。リストとバルトークの作品を同郷のマエストロが指揮なさるということで絶対に聴き逃せない内容ですね。そこに加えショスタコーヴィチのドラマチックな交響曲第5番。マエストロがどのようなアプローチで指揮されるのかとても楽しみです。

—— レコード収集家でもある阪田さん。バルトークのピアノ協奏曲第3番のオスメ盤を教えてください。

少し古い演奏ですが、ゲザ・アンダのピアノ、フリッチャイの指揮でベルリン放送交響楽団の演奏を私は好んで聴いています。素晴らしいです。バルトークのピアノ協奏曲が3曲とも収録されているのも魅力です。

—— 最後にメッセージをお願いします。

私にとって日本センチュリー交響楽団の皆様との共演は、今回が初めてになります。敬愛するマエストロ・コヴァーチュとオーケストラの皆様とバルトークのピアノ協奏曲で一緒にできることが今から楽しみでなりません。ザ・シンフォニーホールの美しい響きで演奏できることは、私にとっていつも大きな喜びです。ぜひ会場に足を運んでお聴きいただけましたら嬉しいです。皆様のご来場をお待ちしております。

©Interview&Text / 磯島浩彰

6/28 FRIDAY [チケット発売中] 「日本センチュリー交響楽団 第282回定期演奏会」

- 会場 / ザ・シンフォニーホール ■開演 / 19:00
 - 料金(税込) / SY8,000(サイン入りプログラム付き※電話のみで取扱い)
AY6,500 BY5,000 CY3,500 DY2,990(完売)
 - お問合せ / センチュリーチケットサービス
TEL.06-6848-3311(平日10:00~18:00)
- ※未就学児童入場不可



©Ayustet